

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	P.P.P.プラットフォーム！児島		
○保護者評価実施期間	R7年12月1日		R7年12月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39枚	(回答者数) 21枚
○従業者評価実施期間	R7年12月1日		R7年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7枚	(回答者数) 7枚
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	丁寧な説明や保護者の相談や子育てに寄り添うこと	・分かりやすい言葉で、保護者の思いを否定しないように心掛けて伝えている。 ・LINEを使用して、いつでも相談や写真や動画を送ることで視覚的に様子を伝える様になっている。	
2	送迎の実施	・お仕事などで直接事業所の送迎が難しい、車を所有していない保護者の方にも療育を提供出来るようにしている。 ・保育園などに直接送迎をすることが出来るため、園の先生と子どもの様子を共有しやすい。	・送迎を利用される保護者の方と直接コミュニケーションをとる機会が少ない為、電話やLINEなどで積極的にコミュニケーションをとっていきたい。
3	固定化されていない活動プログラムを提供していること	・保護者の方からの意見や子どもの様子、状況に合わせて毎年活動内容の見直しを行っている。	・子ども「○○したい」等の意見にもしっかりと耳を傾けながら、事業所に来る楽しみになっていけるように活動をチームで考えていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時の対応について	・避難訓練を実施した際は、LINEにて実施した旨を報告しているが、非常時(事故や怪我・防犯)については、怪我をした当事者や保護者のみに対応を行い、全体に事故があった旨を報告することが出来ていなかった。	
2	障害特性を踏まえ、家庭で具体的にどの様に支援、対応すればよいのか分かり難い	・お子さんの困り感について一緒に考えたり、「○○してみたらどうですか?」と提案する事はあるが、それがどう障害特性なのかを伝えきれていない所や家庭で何をすれば良いか具体的に伝えきれていない所がある。	・職員が障がい特性について学ぶ機会をつくる。 ・家庭で出来ることを保護者の方に分かりやすく障害特性について絡めながら伝えていきたい。
3	保護者同士の交流会やきょうだい児支援について	・定期的に保護者同士が関わる機会がないこと。 ・お仕事の都合などで開催しても参加人数が少ないこと。 ・きょうだい児対象のイベントがないこと。	・きょうだい児も参加出来るイベントを検討していく。 ・今後も日程を年間でお知らせして、保護者もイベントに参加出来るように工夫する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 P.P.P.プラットフォーム！児島

公表日 R8年 2月 28日

利用児童数

39名

回収数

21枚

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19		2			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	19			2	少ないか多いかが分からないが、子どもは楽しく過ごせている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20			1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	19	1		1		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20			1		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	20			1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	21				保護者ニーズだけでなく、専門家の立場でのアセスメントもふまえ、成長を見据えて目標設定を下している。またその提案も分かりやすく具体的に計画に反映されている。	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19			1		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19			2		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	20			1		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	13	3	1	4		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	21					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	20			1		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	20			1		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	19	1	1		コミュニケーションは十分にとって下さっている。プランの方向性・特性理解ともに共有出来ている。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	19	1	1			
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	19			2	とっっても寄り添ってくれる。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	14	1		6		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	17	1		3		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	20	1			連絡ノートやLINE、懇談などでしっかり共有してくれる。	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	21					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18			3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	16	1		4		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	19			2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16	1		4		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	19			2		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	19			2	とっても楽しいと言っている。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	21					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		P.P.P. プラットフォーム！児島				公表日	R8年2月28日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		設定、勉強、遊びと個別対応が必要な場面も多いが、仕切るなど空間をうまく活用している。	部屋は広いとは言えない。 →基準は守っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		送迎等を考慮して受け入れも工夫している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	都度設備等の補修を行っている。	部屋数や広さによって活動場所が変わる為、混乱する子には事前に声掛けの必要性を感じる。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	時間がある時は毎朝清掃している。	冷暖房の効きが悪い。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	2	少しでも準備時間が減る様に、課題を共有したり、毎年同じ手順書を使用している。	送迎の時間などで職員が全員参加して目標と振り返りは難しい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		年2回満足度調査を実施している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7		大岡先生からアドバイスを受けている。虐待防止定例会でのアドバイスを共有し取り入れている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		研修等に参加している。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	1	ケースカンファレンスを実施している。個人ファイルに支援目標を提示している。	全ての利用児について理解出来ているかと言われると出来ていないと思う。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1		アセスメントシートはあるが、日々使用して確認することが出来ていない。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	2	個人で行っているが、職員に相談する時もある。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		1対1や2対1、5対1など様々な組み合わせで行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	4	部分的に行っている。 業務一覧表と引き継ぎノートで把握する。	必ずはしていない。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	4	部分的に行っている。 引継ぎノートで把握している。	必ずはしていない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		ケース入力をしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	1		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	2	必要に応じて対応している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	1		
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	4	保育園や幼稚園の先生から他児との関わりについて尋ねて様子を把握する様にしている。	自宅保育の子も居ない為、活動の機会を設定していない。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7				
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		ペアトレ、かがやき手帳を書く会を実施している。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7				
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7				

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	1	茶話会を実施している。	きょうだい同士の交流機会はあまりない。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		なんでも相談がある。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7		ふれあいフェアがある。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	1		説明を受けたことはあるが、実際にはないので記載したことがない。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	P.P.P.プラットフォーム！児島		
○保護者評価実施期間	R7年12月1日		～ R7年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18枚	(回答者数) 11枚
○従業者評価実施期間	R7年12月1日		～ R7年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6枚	(回答者数) 6枚
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	丁寧な説明や保護者の相談や子育てに寄り添うこと	・分かりやすい言葉で、保護者の思いを否定しないように心掛けている。 ・LINEを使用し、いつでも相談が出来る環境を整えている。 ・LINEを使用し、子どもの活動様子を写真で送るなど視覚的に知らせている。	・卒業した保護者の方ともLINEを繋げて、今後も情報提供や困り感に寄り添っていける仕組みを考えている。
2	固定化されていない活動プログラムを提供していること	・子どもの様子やニーズから活動の見直しを行っている。 ・土曜日に行っている為、時間に縛られずに全体で活動が出来る。(クッキング、買い物、公共交通機関の利用など) ・敷地内のグラウンドを活用して、運動教室や運動活動を提供している。	・子ども達の「やりたい」を聞きながら、プログラムや外出活動に取り入れていきたい。
3	子ども自身と面談を行い、目標を決めている	・支援プランを作成する際に、保護者のニーズを聞くと共に子ども自身とも面談を行い、目標の振り返りや次の目標の設定をし、子どもの「頑張りたい」を応援する様にしている。	・保護者と基本LINEを繋げているが、子どもの年齢等に応じて、子ども自身が相談したいことがあれば相談出来る仕組みを考えていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用終了の目処について	・利用終了を意識した目標を立てておらず、保護者と面談をおこなったときに次の課題がくる為、結局小学校卒業の6年生までを利用する状況にあること。	・家庭での悩みが多い為、家庭での対応の仕方や特性について伝えていきたい。 ・ただ小学校6年生まで利用するのではなく、卒業を意識しながら保護者と面談を行っていく。
2	小学校との連携	・土曜日利用の為、先生と話す機会が少ない。 ・学校を訪問して本児の様子を見ることが出来ていないこと。	・懇談前など新しいプランを作成する際に、小学校へ電話連絡を取り、学校の様子を聞く様になっている。 ・相談支援員さんに担当者会議の開催を依頼し、学校の先生と顔合わせをして、方向性を揃えていく。
3	保護者同士やきょうだい児支援について	・保護者が集う場(かがやき手帳・サポートBook・茶話会など)は開催しているが、仕事などの都合で参加させていない。 ・保護者が求める講座が開催出来ていない。(中学校以降の進路について・思春期や成人期について等)	・保護者の希望を聞き、興味ある内容の講座を開催すると共にその会で保護者同士が関われる機会やきょうだい児の参加もを検討する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 P.P.P.プラットフォーム！児島

公表日 R8年2月28日

利用児童数

18名

回収数

11枚

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11				活動の部屋も沢山あり外で遊んだりするので良いと思う。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	9	1		1	適切だと思う。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10			1	その日のスケジュールを絵カードで分かりやすく提示してもらっている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	9	1		1	安心して過ごせる環境になっていると思う。	
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11				面談などで課題について話し合って支援計画が作られているのが安心できる。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	11				的確で丁寧な計画を立ててくれていると思う。	
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10			1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9	1		1	毎回違うプログラムを考えて下さり、子どもが飽きない工夫をしている。	
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	5	3		3		
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11				時間をかけて説明してもらっています。	
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9			2		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	11				いつも息子の様子を細かく連絡帳やLINEで伝えて下さり、デイでの様子を知ることが出来る。	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11				定期的に面談あり。	
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	10			1		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7	2		2	かがやき手帳を書く会や保護者同士が集まる会などがある。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8	1			
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8	1			写真付きでその日の活動の様子をLINEで送ってきて頂けるのでありがたく思っている。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9				していると思う。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6	1		1	訓練していると思う。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	1			訓練していると思う。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8	1			
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7	1		1	LINEや電話なので説明して下さっています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	9				とても可愛がってもらっているのが分かるので安心して、息子のことをお願いしています。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	7	1		1	前日からとても楽しみにしています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	9				とても満足しています。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		P.P.P.プラットフォーム！児島				公表日 R8年2月28日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		活動に合わせて部屋を使い分けている。	成人稼働日は児童棟だけでは体も大きいので手狭に感じることがある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1		階段がある為、バリアフリーとは言えない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	2	高学年に合わせて目標シートを改良するなど、職員間で話をした内容を共有したり、課題内容の共有を行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	2		標準化されたアセスメントが実施出来ていない。職員間で認識が異なることがある。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	2		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	2	引継ぎや部分的に行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	2	活動の流れを作成して共有している。 気付いた点を職員間で共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	1		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	6			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2	必要に応じて行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	2	学校休日に実施している為、学校と連絡回数は少ないが、懇談前には情報共有したり、保護者や子どもから行事等の様子について聞いている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1	児童発達支援利用児が多い為、必要に応じて情報共有している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	2	移行する場合には情報を提供したり、相談支援員に様子を伝えるようにしている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2		PPPヒマフリ！児島と連携を図り、動き出そうとしている段階。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	小学校に電話連絡をした際に対人面については何う様になっている。	関わる機会を設けていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2	案内が来た時には積極的に参加する様になっている。	サビ管が参加していることが多い為、可能なら他の職員が参加する機会を設けていく。
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6				
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6				
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	1		ご案内はするが参加が少なかったり、きょうだい同士で交流する場の提供が出来ていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6			
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6				